

リスク管理

グループ長からのメッセージ

当社グループのビジネスが一段と多様化・高度化する中で、各種案件への取り組みや事業の展開に伴って発生するリスクも多岐にわたり複雑化しております。

こうした環境下、多様な事業戦略や事業特性に応じて、関連するリスクを適切に把握・管理していくことが、経営の健全性や企業価値を高めるうえで極めて重要であるとの認識に立ち、リスク管理態勢の強化・充実に取り組んでおります。

今後も、リスクテイクとリスクコントロールのバランスを意識したきめ細かなコミュニケーションを通じて、健全なリスクカルチャーを絶え間なく醸成し、資本の有効活用やリスク・リターン運営の高度化を図っていくことで、当社グループの成長を支えてまいります。

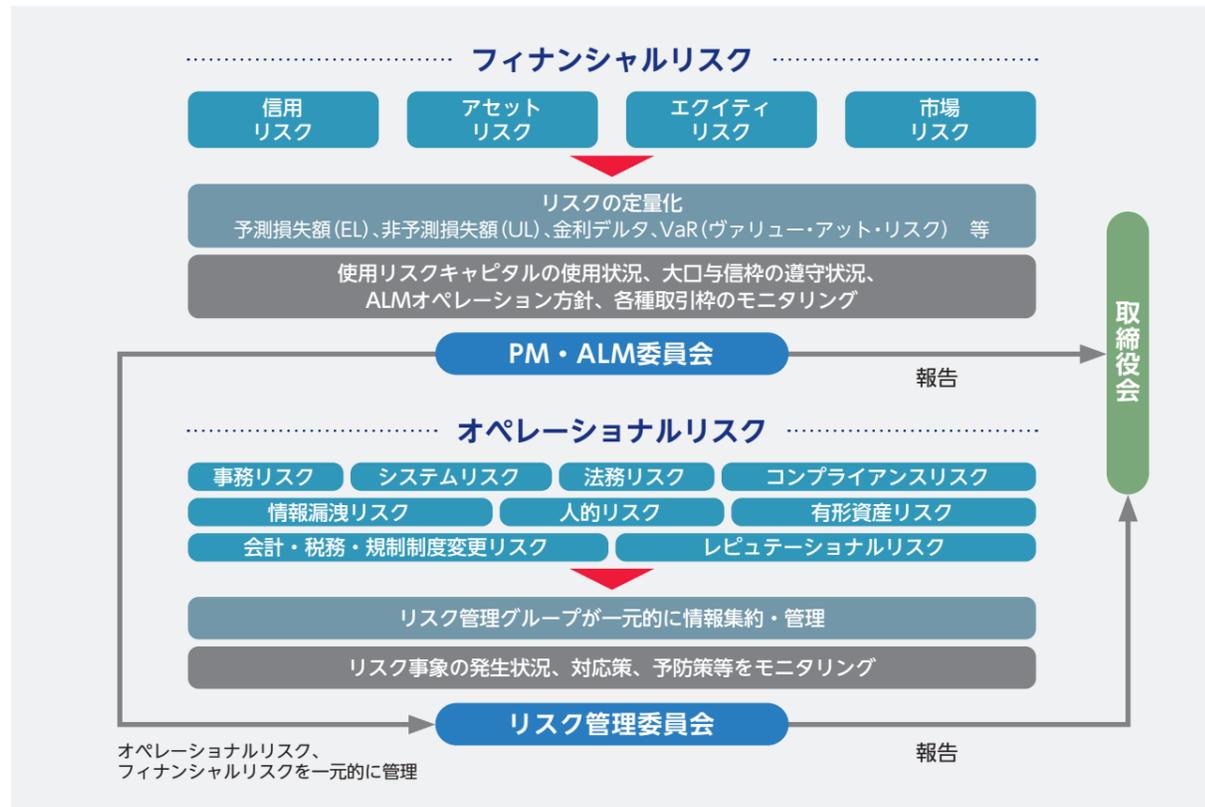


常務執行役員
リスク管理グループ長
内村 裕也

リスク管理体制について

当社グループは、事業活動にかかわるリスクを的確に把握・分析・制御し、経営への影響を低減していくため、リスク管理グループ長が全社的な視点でリスクマネジメントを一元的に統括・推進するとともに、各リスク所管部門を通じてリスク事象に対して迅速かつ機動的に対応する体制を整備しています。

当社グループの業務に伴って発生するリスクを、定量的管理を行うフィナンシャルリスクと、定性的管理を行うオペレーショナルリスクに分け、各々のリスク管理体制を定め、また「PM・ALM委員会」および「リスク管理委員会」を開催しリスクに関するコミュニケーションの充実を図るとともに、リスク管理の状況は取締役会に報告しています。

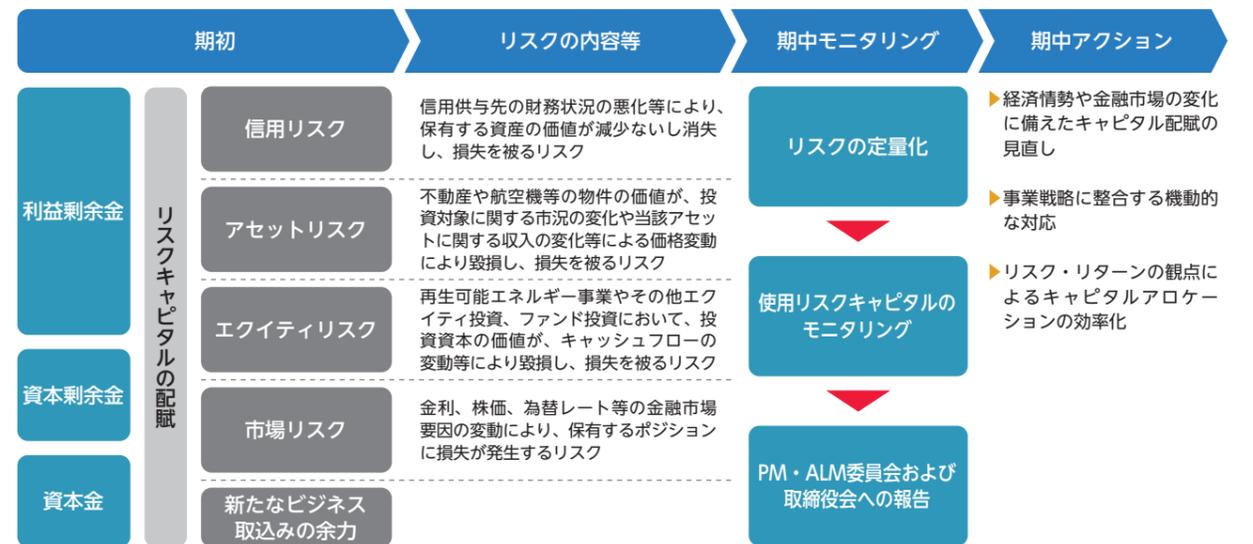


フィナンシャルリスク管理体制およびリスクキャピタル配賦について

フィナンシャルリスクを総合的に把握・コントロールしていくために「リスクキャピタル配賦」の枠組みによる運営を実施し、経営の安定性維持と収益性向上の両立を図っています。

具体的には、それぞれ計量化された各種リスクを統一的・一元的に管理し、リスクの総量を自己資本の一定範囲内に抑え、また各リスクカテゴリーにおいては配賦されたリスクキャピタルの範囲内で合理的かつ効率的にリスクテイクを進める体制としています。

「リスクキャピタル配賦計画」(どのリスクカテゴリーにどれだけリスクキャピタルを配分するか)に関しては、年度の業務計画の一環として取締役会にて決議され、リスク計量結果は、業務運営の状況として月次で取締役会に報告されています。



※P.91「事業等のリスク」も併せてご参照ください。

オペレーショナルリスク管理体制について

不備・事務過誤、コンプライアンス上の問題、不適切な業務運営、システム障害、その他外部要因によるオペレーショナル事象をリスク管理グループが一元的に収集・管理し、対応策・再発防止策の策定等、各リスクカテゴリーに応じた適切な対応を行っています。またリスクの状況はリスク管理委員会、ならびに取締役会に報告しています。

サイバーセキュリティリスクへの全社的対応

当社グループでは、増大するサイバーセキュリティリスクを重要な経営課題の一つと捉え、全社的な対応を強化しています。具体的には、サイバーセキュリティリスク管理の基本方針を策定し、グループ全体の対応方針や責任者や管理の枠組み、関係者の役割と責任等のリスク管理態勢を明確化しております。また、専門チームであるCSIRT (Computer Security Incident Response Team) やSOC (Security Operation Center) による監視体制、多層防御、ゼロトラストの導入など、外部専門家とも連携のうえ、サイバー攻撃の早期検知・防御機能の強化のための対策を強化しています。

役職員に対しては、みずほリースグループ合同でのサイバーセキュリティ訓練(写真)を通じた対応力の向上やeラーニングを通じたセキュリティ意識の向上に取り組んでいます。



緊急対策会議での情報共有と対応方針議論(訓練)